

# 大阪府におけるエイズ発生動向

令和元年（2019年）1月1日～12月31日

大阪府健康医療部保健医療室

## 目 次

### 令和元年（2019年）のエイズ発生動向

1 概要	.....	P 1
2 総括	.....	P 2
表 1	2019年に報告されたHIV感染者及びAIDS患者の内訳と前年の比較.....	P 3
表 2	2019年末現在のHIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別 累積報告件数.....	P 5
表 3	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移.....	P 6
表 4	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、感染経路別年次推移.....	P 7
表 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別年次推移.....	P 8
表 6	HIV感染者及びAIDS患者の性、年齢階級別年次推移.....	P 9
表 7	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染場所別年次推移.....	P 1 1
表 8	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数.....	P 1 2
図 1 - 1	2019年に報告されたHIV感染者の感染場所と前年の比較.....	P 3
図 1 - 2	2019年に報告されたAIDS患者の感染場所と前年の比較.....	P 3
図 2 - 1	2019年に報告されたHIV感染者の性と前年の比較.....	P 4
図 2 - 2	2019年に報告されたAIDS患者の性と前年の比較.....	P 4
図 3 - 1	2019年に報告されたHIV感染者の感染経路と前年の比較.....	P 4
図 3 - 2	2019年に報告されたAIDS患者の感染経路と前年の比較.....	P 4
図 4 - 1	2019年末現在のHIV感染者の国籍、性、感染経路別累積報告数.....	P 5
図 4 - 2	2019年末現在のAIDS患者の国籍、性、感染経路別累積報告数.....	P 5
図 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移.....	P 6
図 6 - 1	HIV感染者の感染経路別年次推移.....	P 6
図 6 - 2	AIDS患者の感染経路別年次推移.....	P 6
図 7 - 1	2019年に報告されたHIV感染者（男性）の年齢階級別割合.....	P 1 0
図 7 - 2	2019年に報告されたHIV感染者（女性）の年齢階級別割合.....	P 1 0
図 7 - 3	2019年に報告されたAIDS患者（男性）の年齢階級別割合.....	P 1 0
図 7 - 4	2019年に報告されたAIDS患者（女性）の年齢階級別割合.....	P 1 0
図 8	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数.....	P 1 2

# 令和元年（2019年）のエイズ発生動向

## 1 概要

### （1）発生の主な内訳（表1・表2）

- 2019年に大阪府域において、報告のあったHIV感染者（以下「HIV」と省略）は106件であり、前年に比べ、10件減少した。AIDS患者（以下「AIDS」と省略）は34件であり、前年に比べ、7件減少した。
- HIV・AIDS報告数に占めるAIDS報告数の割合は、24.3%と前年の26.1%に比べ、減少した。
- 累計では、HIVが2,779件、AIDSが915件、計3,694件となった。

### （2）感染経路（表1）

- HIV106件の感染経路を見ると、異性間性的接触が16件（17.1%）、同性間性的接触が74件（69.8%）、静注薬物使用が0件（0.0%）、母子感染が0件（0.0%）、その他が5件（4.7%）、不明が11件（10.4%）で、全体の約9割を性的接触による感染〔90件（86.9%）〕が占めた。前年割合と比べると、同性間性的接触（81.5%→69.8%）が減少し、異性間性的接触（8.1%→17.1%）と不明（9.7%→10.4%）がそれぞれ増加し、静注薬物使用（0.0%→0.0%）と母子感染（0.0%→0.0%）の報告はなかった。
- AIDS34件の感染経路を見ると、異性間性的接触が4件（11.8%）、同性間性的接触が18件（52.9%）、その他が1件（2.9%）、不明が11件（32.4%）となっており、前年割合と比べると、異性間性的接触（17.1%→11.8%）、同性間性的接触（69.8%→58.0%）は減少した。

### （3）国籍、性（表3）

- HIV106件の国籍、性別を見ると、日本人男性が86件（81.1%）、日本人女性が4件（3.8%）、外国人男性が16件（15.1%）、外国人女性が0件（0.0%）であった。前年割合と比べると、日本人男性（89.7%→81.1%）は減少、外国人女性（0.0%→0.0%）は横ばい、外国人男性（8.6%→15.1%）と日本人女性（1.7%→3.8%）は増加した。
- AIDS34件の国籍、性別を見ると日本人男性は27件（79.4%）、日本人女性が1件（2.9%）であり、外国人男性は6件（17.6%）、外国人女性は0件（0.0%）であった。

### （4）年齢階級（表6-1・表6-2）

- HIV106件の年齢階級を見ると、0～19歳は0件（0.0%）、20～24歳が13件（12.3%）、25～29歳が20件（18.9%）、30～34歳が24件（22.6%）、35～39歳が10件（9.4%）、40～44歳が12件（11.3%）、45～49歳が14件（13.2%）、50～54歳が6件（5.7%）、55～59歳が2件（1.9%）、60歳以上が5件（4.7%）となっており、20歳代～30歳代で全体の61.3%（65件）を占めた。

- A I D S 34件の年齢階級を見ると、20～24歳が2件（5.9%）、25～29歳が4件（11.8%）、30～34歳が7件（20.6%）、35～39歳が5件（14.7%）、40～44歳が1件（2.9%）、45～49歳が3件（8.8%）、50～54歳が4件（11.8%）、55～59歳が4件（11.8%）、60歳以上が4件（11.8%）となっており、20歳代～40歳代で全体の64.7%（22件）を占めた。

#### （5）感染場所（表7）

- H I V 106件の感染場所を見ると、国内が83件（78.3%）、国外が15件（14.2%）、不明が8件（7.5%）となっており、例年どおり、国内での感染が多かった。
- A I D S 34件の感染場所を見ると、国内が20件（58.8%）、国外が3件（8.8%）、不明が6件（17.6%）となっており、例年どおり、国内での感染が多かった。

## 2 総括

- H I Vの報告は、106件であり、前年より10件（前年比－8.6%）減少した。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が、74件（69.8%）と依然高く、前年91件（78.4%）に比べると、件数と割合ともに減少した。  
また、日本人女性の報告数は、異性間性的接触で4件であった。
- A I D Sの報告は、34件と前年より7件（前年比－17.1%）減少した。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が13件（38.2%）と最も高く、前年24件（58.5%）に比べ、減少した。日本人男性の異性間性的接触は4件（11.8%）で、前年0件と比べると増加した。
- H I V・A I D S 報告数に占めるA I D S 報告数の割合は、24.3%と前年の26.1%に比べ減少したが、A I D Sの報告数が20歳代後半および30歳代前半で増加しているため、若い世代の啓発を引き続き行い、今後の動向を注視していく必要がある。
- 2019年の保健所等におけるH I V抗体検査件数は、20,690件と前年より2,051件(前年比＋11%)増加し、陽性の件数は72件と増加している。  
引き続き個別施策層（※）への啓発や検査体制の充実により、H I V感染の早期診断を促進する必要がある。
- 社会のH I V感染症への関心の低下が懸念される中、新たな感染拡大防止のために、特に若者層への正しい知識の普及啓発を継続して実施する必要がある。

※個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために、施策の実施において特別な配慮を必要とする人々